

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：12613

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2017～2021

課題番号：17H00898

研究課題名(和文)トラウマとジェンダーの相互作用：精神病理・逸脱・創造性

研究課題名(英文) Interaction of trauma and gender: psychopathology, deviation and creativity

研究代表者

宮地 尚子 (MIYAJI, Naoko)

一橋大学・大学院社会学研究科・教授

研究者番号：60261054

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 32,300,000円

研究成果の概要(和文)：トラウマとジェンダーの相互作用を、(1)精神病理的側面から、(2)犯罪行為や逸脱現象の側面から、(3)文化創造的な側面から探り、明らかにした。

(1)では、国内外の臨床家、ジェンダー学の専門家らと共同研究会議を行い、トラウマと解離の問題やトラウマと身体の問題などを検討した。(2)では刑事司法におけるジェンダー平等、教育現場での性暴力防止、女性薬物依存症者への支援、性労働従事者への暴力の防止などについて、研究と啓発活動を行った。(3)では、参加型アートのワークショップやフィールドワークを行い、トラウマからの創造性について考察した。成果は、著書の刊行やインターネット配信などの形で、国内外で発表した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神医学、脳科学、法学、ジェンダー及びセクシュアリティ論、メディア研究等の研究者、臨床家、支援団体、アーティスト、矯正機関や当事者運動からの研究協力者が加わることで、有機的な研究ネットワークが形成された。その研究成果は、学術的な文献として発表されただけでなく、メディアによる取材などを通して、広く社会に発表された。

研究成果の概要(英文)：Interaction of trauma and gender was analyzed from three dimensions: 1) psychopathology, 2) crimes and deviation, and 3) cultural creativity.

On the first dimension, the issues of "trauma and dissociation" and "trauma and body" were examined by conducting international research and cross-disciplinary conferences with clinicians and gender specialists. On the second dimension, we conducted research and educational activities on gender equality in criminal justice, prevention of sexual violence in educational settings, support for female drug addicts, and prevention of violence against sex workers. On the third dimension, creative aspects of trauma were explored through various art projects using the method of participant observation.

The results were presented nationally and internationally in the form of publications and internet distribution.

研究分野：精神医学、医療人類学

キーワード：精神医学 ト라우マ ジェンダー

## 1. 研究開始当初の背景

性暴力やDV(ドメスティック・バイオレンス)など、ジェンダーやセクシュアリティに基づく暴力は、「女性に対する暴力」として1970年代頃から国連レベルでも問題化され、実態調査や被害者支援などの施策が講じられてきた。これらの暴力によるトラウマは、被害者の心身に様々な症状をもたらすのみならず、対処行動や生活様式を変化させ、その後のジェンダーやセクシュアリティにも影響を与えることが、諸外国の研究から明らかになってきている。とくに成長過程早期からの暴力や、親密な関係の中で長期間続く暴力が被害者にもたらす影響は著しい。また、社会全体がそのような暴力に寛容な場合は、二次的・三次的影響も大きい。

しかし、日本の精神医学・心理学においてトラウマ研究の蓄積は浅く、ジェンダーの視点は乏しかった。ジェンダー研究においても、暴力への注目はあるが、トラウマという視点の本格的な組み入れは緒についたばかりである。加えて、トラウマは社会に遍在しており、臨床的に観察されるものはその一部に過ぎないにもかかわらず、トラウマは医療化・病理化の文脈においてのみ捉えられやすく、より学際的で、社会に開かれた視点が求められている。

以上のような問題意識から、研究代表者らは2001(平成13)年よりトラウマとジェンダーに焦点をおいた研究を開始し、PTSD(心的外傷後ストレス障害)などの「外傷性精神障害」を中心に、臨床現場で起きていることの考察を行った。2009(平成21)年度からは、その流れを踏襲しつつ、症状などの精神病理的な現象に加えて、トラウマが犯罪や逸脱につながる側面、当事者の自助グループ形成やメディア発信・アート表象など創造性につながる側面へと、視野を広げて研究を行ってきた。

## 2. 研究の目的

2017(平成29)年度からの研究は、2009(平成21)年度からの研究を拡大して引き継ぎ、トラウマとジェンダーの相互作用を次の3つの側面から考察することを目的にしていた。

(1) トラウマとジェンダーの相互作用を、精神病理的側面から明らかにする。とくに長期のトラウマの影響を包括する「複雑性PTSD」や「発達性トラウマ障害」に焦点をあて、鍵となるアタッチメント(愛着)の問題と解離症状に着目しながら、トラウマとジェンダーの複雑で長期的な相互作用を明らかにする。

(2) トラウマとジェンダーの相互作用を、犯罪行為や逸脱現象から明らかにする。トラウマの長期的な影響やジェンダーとの相互作用は、非行・犯罪、逸脱行為として社会問題視されたり、対人関係トラブルや親密圏の暴力として潜在化したりしやすいため、それらの現象を明らかにする。

(3) トラウマとジェンダーの相互作用を、当事者の自助グループやメディア発信・アート表象など文化創造的な側面から明らかにする。トラウマとジェンダーの相互作用が、自己回復や創造性に向かう流れを分析する。

## 3. 研究の方法

研究代表者・研究分担者を中心に、研究協力者として、脳科学、法学、ジェンダー論、セクシュアリティ論、メディア研究などの研究者、臨床家、アーティスト、矯正機関や当事者運動などの支援者や研究者、ジェンダーやトラウマの分野の大学院生などを加え、学際的かつ社会に開かれた研究を実施した。

以下の通り、各年のテーマを定め、臨床事例研究、文献研究、フィールドワーク、当事者による表現活動の実践的研究、共同研究会議、公開ワークショップなどを行った。

- ・2017（平成29）年度 ト라우マとジェンダーを耕す：傷からの創造性
- ・2018（平成30）年度 男性と被害者性：マスキュリニティ・解離・逸脱
- ・2019（平成31・令和1）年度 自傷行為、依存症とジェンダー：トラウマの「自己治療」をこえて
- ・2020（令和2）年度 ト라우マ反応と身体の調律：アタッチメントと解離の最新理論から
- ・2021（令和3）年度 「災厄」のトラウマとジェンダー：震災の長期的影響とパンデミック

#### 4．研究成果

先の2．研究の目的に記した3点に関して、以下のような成果が得られた。

(1) ト라우マとジェンダーの相互作用を、精神病理的側面から明らかにする。

男児・男性の性被害を切り口にして研究を進めた。2017年度にニュージーランドで研究報告、2018年度に3回の共同研究会議（うち2回は海外研究者を招聘）を開催した。男児・男性の性被害の不可視化と文化や社会との関係、トラウマと解離の問題、臨床の場におけるセラピスト/クライアントの関係、両者の言語や宗教・人種・民族・歴史などの関係について議論を深め、共同研究のネットワークを構築した。その成果も踏まえ、宮地は男性の解離性同一性障害の事例を検討する論文を学会誌に発表した。

また、トラウマと身体の関係やトラウマケアの様々な技法について考察を進め、宮地は2冊の著書を刊行した（『トラウマにふれる：心的外傷の身体論的転回』、『環状島へようこそ：トラウマのポリフォニー』）。2020年度からは、新型コロナウイルス（COVID-19）のパンデミック化によって、DVや、差別・偏見・排除の問題などが注目され、新聞やウェブニュースなどの取材を受けてトラウマケアに関する情報を発信した。さらに「恥」「ケアする側の身体」「Gender-based Violence under the Covid-19 Pandemic」などのテーマで共同研究会議を行った。

(2) ト라우マとジェンダーの相互作用を、犯罪行為や逸脱現象から明らかにする。

女性の薬物依存に関して、宮地は当事者グループや支援者との共同研究を行った。DVなど親密な関係の中での暴力によるトラウマと薬物依存の関係や、治療・回復過程における当事者のレジリエンスなどに関する考察を深め、支援者の研修マニュアル作成に関わった。

司法の場や教育現場におけるジェンダーの不平等、性暴力被害などの問題に関して、後藤は、被害者支援のNPO団体などと協力しながら、研究を進めた。児童虐待とその刑事的対応、性暴力の刑事裁判における問題点、性犯罪被害者への社会的支援、リプロダクティブ・ヘルス/ライツと墮胎罪、学校での子供への性暴力などについて、各種学会で報告を行ったほか、講演や研修、ワークショップの開催などで成果の発信に努めた。

セックスワーク、国際的な人身取引、国際的な移住とセクシュアリティの関係などについて、青山は当事者や支援者のグループと協力しつつ、調査研究を行った。また、性的マイノリティへの性暴力の防止や被害者支援、移民の権利に関して啓発活動、講演などを行った。

(3) ト라우マとジェンダーの相互作用を、当事者の自助グループやメディア発信・アート表象など文化創造的な側面から明らかにする。

さまざまなフィールドワークを実施し、トラウマと創造性の関係を考察した。トラウマと表象分野の研究者、NPO団体、アーティストらとともに「傷からの創造性 環状島・トラウマ・ダンス」などのワークショップを開催し、トラウマと身体の関係について議論を行った。また、ニュージーランドや内モンゴルなどで、精神科医療や「回復」の在り方と民族・宗教・ジェンダー

などとの関係について調査を行った。

震災トラウマと創造性に関して、宮地は、日本放送協会(NHK)による阪神・淡路大震災と心のケアを扱ったドラマ「心の傷を癒すということ」(2020年1月~2月放送)の精神医療監修を行い、関連番組やドラマの映画化にも関わった。さらに震災トラウマのケア、記憶の継承方法などに関して、学会報告や地域アートプロジェクトとの共同研究などを行った。

これらのフィールドワーク、多様な実践的研究を踏まえて、トラウマと創造性に関する理論構築も進めてきた。宮地は生命科学の研究者や美学研究者、トラウマケアの臨床家、哲学研究者などと対談やオンライントークを行い、トラウマからの創造性や、トラウマと時間に関する議論を行った。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計60件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 宮地 尚子、金井 聡	4. 巻 47巻2号
2. 論文標題 コロナ禍での親密的領域における暴力：個的領域の尊重という視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 172-177
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、清水 加奈子	4. 巻 219号
2. 論文標題 あらためてDVとは何か	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 こころの科学	6. 最初と最後の頁 10-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 61巻4号
2. 論文標題 トラウマとともに生きること，トラウマにふれること	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小児の精神と神経	6. 最初と最後の頁 297-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24782/jsppn.61.4_297	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 弘子	4. 巻 19巻1号
2. 論文標題 「あるべき法規範」とサイエンス 少年法改正と刑法性犯罪規定改正をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 司法精神医学	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 なし
2. 論文標題 揺れるこころ ふれる言葉 (連載全12回)	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 共同通信配信	6. 最初と最後の頁 なし
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、安達 もじり、京田 光広	4. 巻 18巻2号
2. 論文標題 精神科医・安克昌からのメッセージ：NHKドラマ「心の傷を癒すということ」を読み解く	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 12-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、山内 明美	4. 巻 49巻3号
2. 論文標題 環状島の水位を下げる	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 8-22
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、木村 美緒	4. 巻 47巻1号
2. 論文標題 現代社会におけるジェンダーと解離	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神療法	6. 最初と最後の頁 21-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 36巻1号
2. 論文標題 マルチトリートメントとレジリエンス	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 精神科治療学	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 Vol.5
2. 論文標題 10年、そして	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東北の風景をきく FIELD RECORDING	6. 最初と最後の頁 6-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山 薫	4. 巻 71巻2号
2. 論文標題 セックスワーク研究における当事者参加行動調査 ジレンマと意義あるいは同意をめぐる考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会学評論	6. 最初と最後の頁 215-232
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、松村 美穂	4. 巻 1140号
2. 論文標題 DV(ドメスティック・バイオレンス)からみえてくる公共 公的領域/親密的領域/個的領域の三分法	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 23-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 17巻2号
2. 論文標題 解離性同一性障害とジェンダー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 トラウマティック・ストレス	6. 最初と最後の頁 23-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子	4. 巻 20巻1号
2. 論文標題 トラウマとリカバリー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 臨床心理学	6. 最初と最後の頁 13-21
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 弘子	4. 巻 第8号
2. 論文標題 死刑とジェンダー	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 CrimeInfo 論文・エッセイ集	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青山 薫	4. 巻 47巻5号
2. 論文標題 「移住セックスワーカー」に対する暴力を防ぐには	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 83-91
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 後藤 弘子	4. 巻 2018年7月号
2. 論文標題 性犯罪規定の意味するもの	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 80-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、松村 美穂	4. 巻 29号
2. 論文標題 トラウマへのまなざし、トラウマを耕すことへの感性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 そだちの科学	6. 最初と最後の頁 80-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮地 尚子、菊池 美名子	4. 巻 16巻1号
2. 論文標題 領域を越えて、トラウマを耕す	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 こころと文化	6. 最初と最後の頁 30-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 菊池 美名子、宮地 尚子	4. 巻 7号
2. 論文標題 性的な傷つきを語りうる「場」を求めて 「聞こえない」と「聞こえすぎる」のあいだで起きていること	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 支援	6. 最初と最後の頁 35-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 後藤 弘子	4. 巻 4号
2. 論文標題 性刑法改正とジェンダー平等	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ジェンダー法研究	6. 最初と最後の頁 163-169
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青山 薫	4. 巻 78号
2. 論文標題 よみがえる「ホモセクシュアル」の亡霊：ルドルフ・ヌレエフ舞台の中止	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 ピーブルズ・プラン (小特集 ロシア革命一〇〇年(2)) (私とロシア革命(2))	6. 最初と最後の頁 91-97
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計97件 (うち招待講演 72件 / うち国際学会 17件)

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 環状島から見る精神科医療と「感情労働」
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会「委員会シンポジウム22」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 トラウマとともに生きること、トラウマに触れること
3. 学会等名 第126回日本小児精神神経学会 特別講演(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Miyaji, Naoko
2. 発表標題 Trauma and Pandemic: Role of Transcultural Psychiatry
3. 学会等名 Annual Scientific Meeting of Indonesian Psychiatric Association (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 弘子
2. 発表標題 立法・司法における「サイエンス」の役割 少年法と刑法性犯罪規定の改正から考える
3. 学会等名 第17回日本司法精神医学会大会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework 2021
3. 学会等名 AIT, GENDER AND DEVELOPMENT STUDIES PROGRAM: Intersections: Global Dialogue on Gender, Development & Social Justice (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 安達 もじり、京田 光広、宮地 尚子
2. 発表標題 精神科医・安克昌からのメッセージ：NHKドラマ「心の傷を癒すということ」を読み解く ランチオンセミナー
3. 学会等名 第19回日本トラウマティック・ストレス学会 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮地 尚子、郡司 ペギオ幸夫
2. 発表標題 切羽つまって考える 『トラウマにふれる』（金剛出版）『やってくる』（医学書院）W刊行記念
3. 学会等名 本屋B&B
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮地 尚子、大嶋 栄子
2. 発表標題 『環状島～トラウマの地政学』から学ぶトラウマケア
3. 学会等名 特定非営利活動法人リカバリー「2020年度女性依存症者に特化した全国支援者研修」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮地 尚子、大嶋 栄子
2. 発表標題 トラウマにかかわること
3. 学会等名 国立精神・神経医療研究センター「薬物問題を抱えた女性の支援と回復を考える」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 後藤 弘子
2. 発表標題 性犯罪改正の課題 国際水準とジェンダーを中心として
3. 学会等名 ジェンダー法学会第18回学術大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Sex Workers and the Right Approach: the International Legal Framework
3. 学会等名 Asian Institute of Technology, GENDER AND DEVELOPMENT STUDIES PROGRAM (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 岡崎「性暴力」事件から見てきたもの：学術に何ができるか
3. 学会等名 日本学会議公開シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 時間と空間の調律：旅によせて
3. 学会等名 歌と語りの夕べ『トン族の歌にふれて』出版記念シンポジウム (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 性暴力被害とトラウマ
3. 学会等名 国際メンタルフィットネス研究所「性被害と刑法改正を考えるパネルディスカッション」 (招待講演)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 後藤 弘子
2. 発表標題 リプロダクティブ・ヘルス/ライツと墮胎罪
3. 学会等名 日本ジェンダー法学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Same-sex Marriage/Partnership at the backdrop of Post-modern Japanese Family
3. 学会等名 University of Tennessy Summer School Program in Japan (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyaji, Naoko
2. 発表標題 Secrets and Lies around Trauma
3. 学会等名 The 4th World Social Science Forum, International Social Science Council (ISSC) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyaji, Naoko
2. 発表標題 Cultivating Trauma
3. 学会等名 The 5th World Congress of the World Association of Cultural Psychiatry(WACP) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 解離・ジェンダー・文化
3. 学会等名 国際トラウマ解離研究学会日本支部解離研究会2018年度年次研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Goto, Hiroko
2. 発表標題 Sexual harassment in Japanese Academic community
3. 学会等名 The 18th Science Council of Asia Conference（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Migrant sex workers in Japan, 30 years on
3. 学会等名 The 5th MMC Regional Conference: Foreign Workers, Marriage Migrants and Displaced Persons（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 宮地 尚子
2. 発表標題 医療現場におけるDV（ドメスティック・ヴァイオレンス）被害者への支援
3. 学会等名 富山県医師会「DV被害者早期発見のための医療機関向け研修会」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Miyaji, Naoko
2. 発表標題 Secret and Lies around Trauma
3. 学会等名 The South-South Institute on Sexual Violence Against Men and Boys第三回コンフェレンス(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 後藤 弘子
2. 発表標題 How Do We Make Criminal Justice Feminine?
3. 学会等名 International Academy of Law and Mental Health_(IALMH)(国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Aoyama, Kaoru
2. 発表標題 Discussion on Social Research and Cultural Studies Session
3. 学会等名 Japan-Asia-Europe Comparative Symposium on Migration, Multiculturalization and Welfare(国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計30件

1. 著者名 日下 涉、青山 薫、伊賀 司、田村 慶子 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 380(347-374)
3. 書名 『東南アジアと「LGBT」の政治 性的少数者をめぐって何が争われているか』:(青山 薫)性的なことは政治的The Sexual is Political 市場・国家・宗教・人権・生存を問う「LGBT」	



1. 著者名 宮地 尚子 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本評論社	5. 総ページ数 240
3. 書名 『環状島へようこそ ト라우マのポリフォニー』	

1. 著者名 野呂 浩史 編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 星和書店	5. 総ページ数 296(93-110)
3. 書名 『トラウマセラピーのためのアセスメントハンドブック』：(宮地 尚子、木村 美緒) 医療人類学におけるアセスメント	

1. 著者名 大嶋 栄子、近藤 あゆみ、松本 俊彦、森田 展彰、宮地 尚子、上岡 陽江、加茂 登志子、菊池 美名子、喜田村 真紀、山田 幸子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立精神・神経医療研究センター	5. 総ページ数 89(51)
3. 書名 『Seeking to Recover from Addiction: workbook for women 女性のためのリカバリー・プログラム SERA(セラ)』：(宮地 尚子、菊池 美名子) 秘密・嘘・成長	

1. 著者名 大嶋 栄子、近藤 あゆみ、松本 俊彦、森田 展彰、宮地 尚子、上岡 陽江、加茂 登志子、菊池 美名子、喜田村 真紀、山田 幸子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 国立精神・神経医療研究センター	5. 総ページ数 89(42-61)
3. 書名 『Seeking to Recover from Addiction: workbook for women 女性のためのリカバリー・プログラム SERA(セラ)』：(宮地 尚子 5章、6章の監修)	

1. 著者名 宮地 尚子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 320
3. 書名 『トラウマにふれる：心的外傷の身体論的転回』	

1. 著者名 宮地 尚子（著）、李欣怡（訳）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 經濟新潮社	5. 総ページ数 224
3. 書名 『環状島效應』（宮地 尚子『環状島 ト라우マの地政学』（みすず書房、2007）の台湾語翻訳版）	

1. 著者名 Garcia, Carmen Garcia. Ed.	4. 発行年 2019年
2. 出版社 La Universidad de Oviedo	5. 総ページ数 164(37-47)
3. 書名 『Volver la Vista al Pasado: Violencia Masiva y Memoria en Japon y en Espana』：(Miyaji, Naoko) Acerca del Trauma Inexpresable: La Isla Toroidal (Isla en forma de anillo con un mar interno.	

1. 著者名 佐藤 李青、川村 庸子、嘉原 妙 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京	5. 総ページ数 175(16-39)
3. 書名 『東北の風景をきく FIELD RECORDING』vol.03：（宮地 尚子、宮下 美穂）『二重のまち / 交代地のうたを編む』を見ながら	

1. 著者名 加藤 泰史、小島 毅 編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 法政大学出版局	5. 総ページ数 462(58-73)
3. 書名 『尊厳と社会(下)』：(宮地 尚子、金井 聡) 尊厳と暴力	

1. 著者名 Miyaji, Naoko	4. 発行年 2018年
2. 出版社 SkyKids	5. 総ページ数 200
3. 書名 『Hanh Trin Hoc Lam Me』(宮地 尚子『ははがうまれる』(福音館書店、2016)のベトナム語翻訳版)	

1. 著者名 特定非営利活動法人アートフル・アクション 編	4. 発行年 2019年
2. 出版社 特定非営利活動法人アートフル・アクション、アーツカウンシル東京	5. 総ページ数 56(40-56)
3. 書名 『わたしの人権の森』：(宮地 尚子、宮下 美穂、佐藤 李青) [座談] 切実さをもって切実さと出会う	

1. 著者名 指宿 信 監修	4. 発行年 2018年
2. 出版社 第一法規出版	5. 総ページ数 465(378-397)
3. 書名 『治療的司法の実践 更生を見据えた刑事弁護のために』：(後藤 弘子) 治療的司法とジェンダー	

1. 著者名 指宿 信 編	4. 発行年 2017年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 320(88-108)
3. 書名 シリーズ刑事司法を考える 第4巻 『犯罪被害者と刑事司法』：(宮地 尚子、菊池 美名子)被害者とトラウマ	

1. 著者名 安里 和晃 編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都大学出版会	5. 総ページ数 310(79-99)
3. 書名 『国際移動と親密圏：ケア・結婚・セックス』：(青山 薫)「不法滞在」をする側の論理 とくに性風俗産業で働く人びとについて	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>論文：「10年目、16年、75年、25年、そして。」  <a href="http://asttr.jp/feature/ima/miyaji/">http://asttr.jp/feature/ima/miyaji/</a>          オンライン対談：伊藤亜紗×宮地尚子「「触れる」にふれる：『手の倫理』『トラウマにふれる』刊行記念」  <a href="https://genron-alpha.com/article/20201225_01/">https://genron-alpha.com/article/20201225_01/</a>          取材：感染してもいいけど、1人目にはなりたくない...なぜ、「自肅警察」や感染者バッシングは起きるのか？  <a href="https://www.buzzfeed.com/jp/yutochiba/covid-19-jiishuku-police">https://www.buzzfeed.com/jp/yutochiba/covid-19-jiishuku-police</a>          オンライン対談の記録：村上靖彦×宮地尚子「違う道からケアに近づく クロストーク前編」  <a href="http://igs-kankan.com/article/2021/09/001340/">http://igs-kankan.com/article/2021/09/001340/</a>          オンライン対談の記録：村上靖彦×宮地尚子「ケアの焦点は「時間」 クロストーク後編」  <a href="http://igs-kankan.com/article/2021/09/001363/">http://igs-kankan.com/article/2021/09/001363/</a>          青山薫 持続化給付金訴訟意見書（東京地裁・岡田幸人裁判長）  <a href="https://www.call4.jp/file/pdf/202112/ec75711e8cc6d51cce77eb5c8661eab9.pdf">https://www.call4.jp/file/pdf/202112/ec75711e8cc6d51cce77eb5c8661eab9.pdf</a></p>
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	後藤 弘子  (Goto Hiroko)  (70234995)	千葉大学・大学院社会科学研究院・教授    (12501)	・ジェンダー法学、刑事法学 ・犯罪・逸脱・司法領域の分析

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	青山 薫  (Aoyama Kaoru)  (70536581)	神戸大学・国際文化学研究所・教授   (14501)	・社会学  ・ジェンダー・セクシュアリティ理論、セックス ワーカー論の側面から分析

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 協力者	田辺 肇  (Tanabe Hajime)  (60302361)	静岡大学・大学院人間・社会系列・教授   (13801)	(平成30年度まで連携研究者) 解離とセクシュアリティの関連について分析
研究 協力者	友田 明美  (Tomoda Akemi)  (80244135)	福井大学・子どものこころの発達教育センター・教授   (13401)	(平成30年度まで連携研究者)脳神経科学とエピ ジェネティクスの側面からアタッチメントとジェン ダーについて分析
研究 協力者	野坂 祐子  (Nosaka Sachiko)  (20379324)	大阪大学・大学院人間科学研究科・准教授   (14401)	(平成30年度まで連携研究者)アタッチメント障害 の臨床例を発達心理とジェンダーの側面から分析
研究 協力者	菊池 美名子  (Kikuchi Minako)  (80769836)	国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター・精神保 健研究所・研究員   (82611)	(平成30年度まで連携研究者)自傷行為を含む自殺 関連行動および依存症とジェンダーの側面から分析
研究 協力者	坂上 香  (Sakagami Kaori)		
研究 協力者	上岡 陽江  (Kamioka Harue)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	紀平 省悟  (Kihira Shogo)		
研究協力者	嶺 輝子  (Mine Teruko)		
研究協力者	中島 啓之  (Nakajima Noriyuki)		
研究協力者	山内 明美  (Yamauchi Akemi)		
研究協力者	山田 幸子  (Yamada Sachiko)		
研究協力者	宮下 美穂  (Miyashita Miho)		
研究協力者	栗林 美知子  (Kuribayashi Michiko)		
研究協力者	中村 江里  (Nakamura Eri)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大石 由紀  (Oishi Yuki)		
研究協力者	松村 美穂  (Matsumura Miho)		
研究協力者	金井 聡  (Kanai Satoshi)		
研究協力者	木村 美緒  (Kimura Mio)		
研究協力者	ルー, マイク  (Lew Mike)		
研究協力者	アルパート, エレイン  (Alpert Elaine)		
研究協力者	ハーマン, ジュディス・L  (Herman Judith, L.)		
研究協力者	ロック, マーガレット  (Lock Margaret)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ホプシェット, マヌエル (Hopchet Manoelle)		
研究協力者	ムヒカ, エルネスト (Mujica Ernesto)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計6件

国際研究集会 Global conference on trauma and gender 3 : Gender-based Violence under the Covid-19 Pandemic	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 Global conference on trauma and gender 2: What is happening to us, and what is happening on gender based violence under COVID-19 pandemic?	開催年 2020年～2020年
国際研究集会 Global conference on trauma and gender 1: Non-apology apology	開催年 2021年～2021年
国際研究集会 ジェンダー・セクシュアリティ・表象	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Complex Trauma and Dissociation.	開催年 2018年～2018年
国際研究集会 Sociocultural Considerations in Psychotherapy with Male Survivors of Sexual Abuse.	開催年 2018年～2018年

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
米国	The William Alanson White Institute	The Next Step Counseling and Training	Columbia University	
ニュージーランド	Male Survivors of Sexual Abuse Trust			
英国	MOMENTUM DEVON C.I.C			
カンボジア	South South Institute			
ベルギー	欧州トラウマ解離学会			



共同研究相手国	相手方研究機関			
中国	内蒙古大学民族学与社会学学院			